

単元名

市場経済の仕組みと金融

1 単元のねらい

貨幣経済における需要と供給の関係性や、金融機関、日本銀行の役割を理解し、それらが私達の社会生活と密接な関係にあることに気づくことができる。

2 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	<p>社会生活における金融と金融機関の役割、経済活動における預金通貨の働きについて理解し、その知識を身に付けている。</p> <p>需要量・供給量と価格の関係や、商品による価格変動の違いの理解に役立つ情報を適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。</p> <p>銀行の役割に関する情報を資料から適切に選択して、読み取ったり図表にまとめたりしている。</p>	<p>需要量・供給量と価格の関係について、対立と合意、効率と公正などの視点から、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。</p> <p>景気の変動について考えることを通して、景気が家計や企業、国の経済に大きな影響を与えていることに気づき、日本銀行が金融政策を行って景気を安定させている仕組みを、資料から考え説明することができる。</p>	<p>日常生活における商品の価格についての疑問から、価格の役割について興味をもち、疑問の解決に向けた話し合いに意欲的に参加している。</p> <p>銀行などの金融機関が社会生活において果たしている役割について関心をもち、意欲的に追究している。</p>

●学習改善に繋がる評価 ○評定に用いる評価

評価／時数	1	2	3	4	5	6
知識・技能	●	●	●	●		●
思考・判断・表現					○	
主体的に学習に取り組む態度	○	○	○	○	○	○

3 単元構造図（全6時間） ☆獲得する認識

単元名 価格の働きと金融	単元学習前の生徒の意識 消費者と生産者は、生産や経済活動の中で、密接な関わりがあることが分かってきた。特にものやサービスの値段がどのように決まるのかを今後深く学習することで、経済活動がどのように私たちと関係があるのか知りたい。
-----------------	---

第1時 市場経済と価格の決め方 【●知識・技能 ○主体的に学習に取り組む態度】

商品の価格はどのように決まるのか？

☆市場 ☆市場経済 ☆需要量 ☆供給量 ☆均衡価格

価格は一定ではなく、需要量と供給量で決まる。需要量より供給量が多くなると価格は下がり、またその逆もある。価格というのは、生産する企業と消費者の動向によって変わる。

価格は私たちの生活にどのような役割や関わりをもっているのか。

第2時 価格の働き 【●知識・技能 ○主体的に学習に取り組む態度】

市場経済において、価格ほどの働きをしているの？

☆市場価格 ☆寡占 ☆独占 ☆独占価格 ☆独占禁止法 ☆公正取引委員会 ☆公共料金

価格の上下によって、生産資源が効率よく利用されていることが分かった。価格には、独占価格や公共料金がある。価格競争をうながすよう、独占禁止法が制定されている。公共料金は国民の生活を安定させるためにあることがわかった。

第3時 貨幣の役割と金融 【●知識・技能 ○主体的に学習に取り組む態度】

貨幣や金融は、私たちの社会でどのような役割を果しているの？

☆貨幣(通貨) ☆金融 ☆直接金融 ☆間接金融

貨幣を使って売買を行うことで、場所や時間にしばられず、ほしいものやサービスを手に入れることができるのだと分かった。また、お金の余裕がある人と不足している人のお金の融通をすることを金融という。直接金融や間接金融によって、お金が家計や企業や政府の間を循環することで、経済が成り立っているのだな。

第4時 私たちの生活と金融機関 【●知識・技能 ○主体的に学習に取り組む態度】

銀行や日本銀行は、どのような役割を果しているの？

☆銀行 ☆預金 ☆利子 ☆金利 ☆為替 ☆預金通貨 ☆現金通貨 ☆中央銀行 ☆日本銀行

銀行は利益を得るために、資金を貸し出すときの金利を高くし、預金金利を低くすることで、収入を得ている。また私たちは銀行の為替を使って、さまざまな支払いができることが分かった。日本銀行は、日本の中央銀行の働きをしていて、発券銀行・政府の銀行・銀行の銀行などの役割を果している。

第5時 景気と金融政策 【●知識・技能 ○主体的に学習に取り組む態度】

景気の変動は、私たちの生活や銀行にどのような関わりがあるの？

☆景気 ☆好景気(不況) ☆不景気(不況) ☆景気変動 ☆物価 ☆インフレーション

景気は常に変動し、景気の変動が企業の生産量や私たちの消費、物価に影響を与えることが分かった。また、日本銀行は景気と物価を安定させるために、銀行の資金量を変化させ、銀行の貸し出し量を操作する、金融政策を行っている。日本の経済を将来私たちが支えていくために、経済や財政についてさらに学んでいきたい。

第6時 グローバル経済と金融 【●知識・技能 ○主体的に学習に取り組む態度】

円高・円安が、私たちの生活にどのような影響を及ぼしているの？

現代社会の経済は、自分の国だけではなく世界の国々との関わりの中で成り立っていることが分かった。外貨と日本の円を交換する際、円が安い時(円安)と、円が高い時(円高)ではそれぞれ貿易に大きな影響を与えていることが分かった。また、物価の安い国に進出する多国籍企業も増えていることが分かった。これからは、日本経済を安定させるためにはどのような政策が必要なのか考えていきたい。

単元学習後の生徒の意識

商品の価格は、需要と供給のバランスで変化することが分かった。金融業者は、いろいろな企業や家計の経済が上手く循環するように、利子を調整しながらお金を貸し出している。さらに生活を豊かにさせるためには、私たちが消費者として経済の中心であるということを実感したり、有権者として景気に着目しながら政治に参加したりするなど、経済的な視点から社会の形成に参画していきたい。

4 単元指導計画

時	ねらい	学習活動	評価規準	◇資料 指導・援助
1 市場経済と価格の決まり方	<p>価格の決定のしくみについて調べることを通して、需要と供給の影響と、バランスによって価格が決定することに気付き、意欲的に読み取ることができる。</p> <p>☆市場 ☆市場経済 ☆需要量 ☆供給量 ☆均衡価格</p>	<p>1 同じ商品でも価格が異なる理由を交流し、価格がどのように決まるのかを考える。</p> <p>生産量の増加(供給)や消費量の増加(需要)によって決まる。</p> <p>・時期や季節によって価格が大きく左右されるものもある。</p> <p>2 需要曲線、供給曲線のシフトにより、均衡価格が決定することを確認する。</p>	<p>同じ商品でも価格が異なるのは、消費者の需要と生産者の供給によるものであるということを、資料から意欲的に読み取っている。</p> <p>(知識・技能)</p>	<p>◇価格に関する疑問</p> <p>◇需要量・供給量・価格の関係について考えよう</p> <p>・需要と供給の語句を理解し、身近な例を通して、市場経済のしくみを理解する。</p>
		<p>価格は私たちの生活にどのような役割や関わり</p> <p>市場価格は一定ではなく、需要量と供給量の関係により変動しながら決まる。需要量より供給量が多くなると価格は下がり、またその逆もある。市場価格というのは、生産する企業と消費者の動向によって変わるものである。</p>		
2 価格の働き	<p>価格の働きについて考える活動を通して、価格の働きが生産資源の効率的な利用につながっていることに気付き、価格の働きを適切に機能させるために、法の制定や公共料金の設定などが行われていることを理解することができる。</p> <p>☆市場価格 ☆寡占 ☆独占 ☆独占価格 ☆独占禁止法 ☆公正取引委員会 ☆公共料金</p>	<p>1 資料から、具体的な商品の価格の変動を調べ、価格の動きの理由について考える。</p> <p>市場経済において、価格はどのような働きをし</p> <p>2 価格の働きについて、価格の上下が生産資源を適量に調節していることを理解する。</p> <p>3 資料から、独占価格の影響や公共料金が設けられている理由を考え、まとめる。</p> <p>・独占価格は、消費者にとって不利な状況を生みやすいため、独占禁止法と公正取引委員会によって監視されている。</p> <p>・社会生活に大きな影響を与える分野は、公共料金として、国や自治体の許認可によって管理されている。</p>	<p>価格の働きについて、需要と供給のバランス、独占価格の独占と寡占、公共料金など複数の視点から考え、理解している。</p> <p>(知識・技能)</p>	<p>◇農作物と工業製品の価格の働き</p> <p>◇需要量・供給量・価格の関係</p> <p>◇日本での生産の集中(寡占化)</p> <p>◇おもな公共料金「需要」「供給」や「独占価格」、「公共料金」の語句を使って、価格の働きをノートに書けるようにする。</p>
		<p>価格の上下によって、生産資源が効率よく利用されていることが分かった。価格には、独占価格や公共料金がある。価格競争をうながすよう、独占禁止法が制定されている。公共料金は国民の生活を安定させるためにあることがわかった。</p>		
3 貨幣の役割と金融	<p>貨幣と金融の役割について調べる活動を通して、生産と消費を結びつける貨幣の特色と金融の方法と働きについて理解する</p>	<p>1 さまざまな貨幣を見比べ、貨幣の役割やお金のやりとりについて関心をもつ。</p> <p>貨幣や金融は、私たちの社会でどのような役割を</p> <p>2 貨幣と金融の役割について説明できるようにする。</p> <p>3 直接金融・間接金融について確認する。</p>	<p>貨幣の役割、直接金融・間接金融のちがいについて理解している。</p> <p>(知識・技能)</p>	<p>◇江戸時代に日本で使われた貨幣</p> <p>◇直接金融・間接金融の仕組み</p> <p>◇世界金融危機を報じる新聞記事</p>

<p>ことができる。 ☆貨幣(通貨) ☆金融 ☆直接金融 ☆間接金融</p>	<p>貨幣を使って売買を行うことで、場所や時間にしばられず、ほしいものやサービスを手に入れることができるのだと分かった。また、お金の余裕がある人と不足している人の間でお金の融通をすることを金融という。直接金融や間接金融によって、お金が家計や企業や政府の間を循環することで、経済が成り立っている。</p>
--	---

<p>4 私たちの生活と金融機関</p>	<p>銀行の役割を調べる活動を通して、銀行が企業への貸し付けの利子から利益を得ていることを理解するとともに、銀行と日本銀行の関係性について、資料を読み取り、説明することができる。 ☆銀行 ☆預金 ☆利子 ☆金利 ☆為替 ☆預金通貨 ☆現金通貨 ☆中央銀行 ☆日本銀行 ☆金融政策 ☆発券銀行 ☆政府の銀行 ☆銀行の銀行</p>	<p>1 身の回りにある金融機関を確認し、銀行がどのような場面で利用されているのか資料から確認する。 銀行や日本銀行はどのような役割をもっている</p> <p>2 銀行の仕組みについて、意見交流をする。 ・銀行はお金を貸し出したときに、お客からもらう利子率を高くしている。預金する人に渡す利子率は低くしておけば、差額が生まれ銀行の儲けになる。 ・為替によって、私たちは口座間でお金の支払いができる。</p> <p>3 日本銀行が日本の中央銀行であること、3つの役割をもっていることを理解する。 ・発券銀行、銀行の銀行、政府の銀行</p> <p>4 本時のまとめをする。</p> <p>銀行は利益を得るために、資金を貸し出すときの金利を高くし、預金金利を低くすることで、収入を得ている。また私たちは銀行の為替を使って、さまざまな支払いができることが分かった。日本銀行は、日本の中央銀行の働きをしていて、発券銀行・政府の銀行・銀行の銀行などの役割を果たしている。</p>	<p>銀行の働き、銀行と日本銀行の関係性について、資料を読み取り、説明している。 (知識・技能)</p>	<p>◇私たちのくらしと銀行 ◇預金通帳の例 ◇さまざまな金融機関 ◇為替の仕組み ◇通貨統計 ◇通帳の明細 ◇銀行の働き</p> <p>・資料から銀行が貸しつけたときの利子率の方が高くなるよう設定していることが分かるようにする。</p>
<p>5 景気と金融政策</p>	<p>景気の変動について考えることを通して、景気が家計や企業、国の経済に大きな影響を与えていることに気づき、日本銀行が金融政策を行って景気を安定させている仕組みを、資料から考え、説明することができる。</p>	<p>1 資料や新聞記事から、景気の変動があることを知り、その影響を考えようとする。 景気の変動は、私たちの生活や銀行とどのよ</p> <p>2 景気の変動の影響について意見交流する。 ・好景気ときは消費が拡大して、商品の需要、生産が増える。 ・不景気になると、商品が売れなくなり、企業の生産も減って、家計の所得も減少する。 ・景気の変動が、物価の変動に影響を与え</p>	<p>景気の変動の影響と、好景気・不景気ときの日本銀行の金融政策について、どのような動きがあるのか資料から考え、自分の言葉で表現・説明している。 (思・判・表)</p>	<p>◇日本の景気や物価に関する新聞記事 ◇日本の国内総生産と経済成長率の推移 ◇デフレスパイラル ◇日本銀行の金融政策</p> <p>・国債を買う、</p>

	<p>☆景気 ☆好景気(不況) ☆不景気(不況) ☆景気変動 ☆物価 ☆インフレーション ☆デフレーション ☆金融政策 ☆経済成長</p>	<p>ている。(インフレーション, デフレーション) 3 日本銀行の金融政策の仕組みについて、考える。 ・日本銀行は、景気の良し悪しに応じて、各銀行の資金量を増減させることで、景気や物価に影響を与えている。 4 本時のまとめをする。</p>		<p>売るなどの仕組みを補足する。</p>
	<p>景気は常に変動し、景気の変動が企業の生産量や私たちの消費、物価に影響を与えることが分かった。また、日本銀行は景気と物価を安定させるために、銀行の資金量を変化させ、銀行の貸し出し量を操作する、金融政策を行っている。日本の経済を将来私たちが支えていくために、経済や財政についてさらに学んでいきたい。</p>			
<p>6 グローバル経済と金融</p>	<p>日本の経済は、自国だけではなく世界中の国々との関わり合いの中で成り立っており、様々な要因で円高や円安の状態になることを理解するとともに、経済状況に合わせて多国籍企業が増えたり、国境を越えた投資が行われたりしていることを理解することができる。 ☆貿易 ☆産業の空洞化 ☆為替相場 ☆円高・円安 ☆多国籍企業</p>	<p>1 資料から円高・円安という言葉を知り、それぞれの経済状況が私たちにどのように影響しているか考える。 円高・円安が、私たちの生活にどのような影響 2 円高・円安の影響について意見交流する。 ・円高・円安は外国の貨幣の価値と比較した時、円の価値が安い・高いかできる。 ・円高の時は、輸出中心の企業は不利になるが、輸入が中心の企業には有利になる。一方で、円安の時はその逆になる。 3 日本の自動車メーカーの海外での生産が増えている理由について考える。 4 本時のまとめをする。</p>	<p>円高・円安が私たちの生活にどのような影響を与えるのかについて理解している。 (知識・技能)</p>	<p>◇円安の影響に関する新聞記事 ◇日本の貿易赤字を報じる新聞記事 ◇円高・円安の影響について計算 ◇多国籍企業 ◇産業の空洞化 ◇国境を越えた投資 ・円高時の貿易と、円安時の貿易の違いを理解する。</p>

		<p>現代社会の経済は、自分の国だけではなく世界の国々との関わりの中で成り立っていることが分かった。外貨と日本の円を交換する際、円が安い時（円安）と、円が高い時（円高）ではそれぞれ貿易に大きな影響を与えていることが分かった。また、物価の安い国に進出する多国籍企業も増えていることが分かった。これからは、日本経済を安定させるためにはどのような政策が必要なのか考えていきたい。</p>
--	--	--